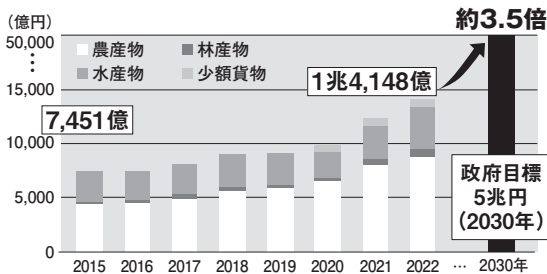


## ドックシェルター・エアシェルター

### はじめに

我が国の農林水産物・食品の輸出額は、2022年に過去最高を記録し、2012年と比較すると3倍以上で、10年連続で増加している状況となっています。そのような現状の中、2020年3月31日に閣議決定された「食料・農業・農村基本計画」において、農林水産物・食品の輸出額を2030年までに5兆円にするという目標が設定されており、今後この政府目標の達成に向け、産地が取り組む大ロット・高品質・効率的な輸出を後押しするため、産地と港湾の連携を促進するとともに、港湾やその近傍において、現状では不足している輸出機能を強化することが求められています。



農林水産物・食品の輸出額の推移

国土交通省では、この輸出機能強化のための取り組みとして、小口貨物等の積替を行う施設やコンテナ・シャーシの蔵置を行うための施設、埠頭内でリーファコンテナに電源供給を行うための施設等の整備に対する支援を行っています。

本稿ではその支援対象でもあるドックシェルター・エアシェルターについて紹介していきます。

### ドックシェルター・エアシェルターとは

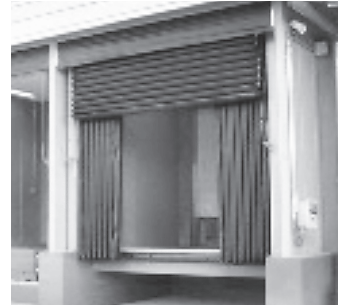
ドックシェルター・エアシェルターとは、倉庫や工場の搬入口と、トラックやコンテナとを隙間なく密着させ、屋外と屋内の空気の流出入を防ぐことで温度環境を確保しつつ、農産物をコンテナ等に荷積みするための施設です。これらの設置によりコールドチェーンを維持した状態でコンテナへの荷積みが可能となります。また、入出荷時の雨風、粉塵、虫等の侵入を防止し、施設内を清潔な環境に保つことが可能となります。その他、冷気の流出と暖気の流入を抑え、エネルギーロスを防ぐことができるためエネルギー効率を向上させる効果も期待できます。

ドックシェルターとエアシェルターでは、搬入口とトラック、コンテナとの隙間の密閉方法に違いがあり、利用するトラックの種類等を踏まえ、各地で設置がなされています。

ドックシェルターは、パットを固定した固定式とトラックの大きさに合わせてパットを動かすことで密閉する可動式があります。いずれも屋外と屋内の空気の流出入を防ぎ、室温



ドックシェルター



エアシェルター



を一定に保つものになります。

一方、エアシェルターは、エアバッグを搬入口の枠内に設けており、トラックが接車した後、エアバッグに空気を注入し膨らませ、トラックの三方を密閉するものとなっています。

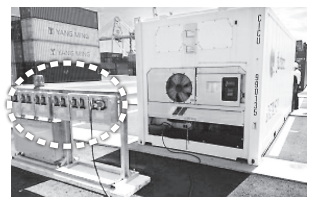
### 設置支援事例

前述の通り、農林水産物・食品の輸出については、2030年までに輸出額を5兆円とする政府目標の達成に向け、生産関係者や港湾関係者が協力して輸出促進の取り組みを行う上で必要な施設整備への支援制度を設けており、これまで、清水港及び堺泉北港において支援を行っています。

清水港では、民間事業者による温度・衛生管理が可能なドックシェルターの整備（静岡中央卸売市場）への支援の他、静岡県によるリーファプラグの整備（清水港袖師地区）への支援も行っています。



ドックシェルター整備



リーファプラグ整備

堺泉北港では、堺青果センターのエアシェルターの整備を支援することでコールドチェーン・輸出環境の強化を通じて輸出品の品質を向上させ、堺泉北港を核とした阪神港等を通じた農産物の輸出の拡大を図っています。

### おわりに

現在、国土交通省で行っている農林水産物・食品のさらなる輸出促進に向けた支援制度について、今後益々の支援拡大が期待され、支援拡大により世界の人々に日本の新鮮で美味しい農産物・食品を食べてもらえるよう今後も取り組みを進めていきたいと考えています。